



Webプログラミング実習1

2017/6/07

Kazuma Sekiguchi

class@cieds.jp

JSを利用したHTMLなど

- JSを利用するとHTMLやCSSは動的に変更される
 - ソースコードは信用にならない
 - DeveloperToolなどのその時表示に使用しているソースコードを表示できるツールで確認する
 - F12キー（Win）、Safariは開発メニューを出して利用
- JSでCSSを変更するとStyle属性で記述される
 - 属性で記述されてしまうため、上書きは困難
 - できればクラスを付け加える、外すなどで対応する方がよりベター
 - クラスであれば、上書きが可能

動かないとき

- 大体はスペルミスとかの細かいミス
 - Web開発者ツールなどを利用するとエラーを見つけることが可能
 - エラー内容は参考にならないこともあるが、行数は参考になる
 - 指摘されている行付近を探す（たまに行が違うこともある）

The image shows a browser developer console with three log entries. The middle entry is highlighted in pink. Red boxes with arrows point to specific parts of the log entries: 'エラー内容' (Error Content) points to the error message, 'ファイル名と行数' (File Name and Line Number) points to the file and line information, and another box points to the error message again.

```
⚠ Using //@ to indicate that DOM APIs are already loaded is deprecated. Use //@ instead
✖ SyntaxError: missing } after property list
⚠ Web コンソールのログ記録 API (console.log, console.info, console.warn, console.error) は、このページ上のスクリプトにより無効化されています。
```

エラー内容

ファイル名と行数

index.html:14:2

スクロールしたら位置を固定

- スクロールして要素が領域外に出そうになったら上部に貼り付く系
 - スマートフォンサイトなどで良く利用される
 - 最初から最上段に貼り付けておいたらposition:fixedでOK
- スクロールしたら貼り付ける場合
 - 特定の要素位置が重要
 - 要素位置に合わせてpositionプロパティ値を変えることで実現
- 実のところCSS3で登場したposition:stickyを使うとほぼ一瞬で実装完了する
 - まだ対応しているブラウザが少ない（IEとEdgeが対応していない）

スクロール位置にあわせて動かす

- スクロールすると要素が動くようなコンテンツ
 - スクロール位置を検知して、ある一定の場所を越えたら、動作するようにする
 - `if(pos > 200)`のような感じ
 - `==`で繋げないこと (0の場合を除く)
 - スクロールは必ずしも1ずつ上がっていくとは限らないため、ある数値よりも上 (スクロール上は下) になったら、で実行させる

スクロールしたら位置を固定

```
$(“nav”).offset().top;//navタグの画面上部からの位置を取得  
$(“div”).offset().left;//divタグの左側からの位置を取得
```

- offset() で位置を取得可能
 - 取得できる値は、オブジェクト形式なため、leftまたはtopを後に付けて、値を利用する
 - rightとかbottomは無いので注意
- スクロールして、位置が0未満になったらpositionをfixedに変更するなどすることで、固定配置が可能

スクロール位置の取得

```
$(window).scroll(function(){  
    pos = $(window).scrollTop();  
});
```

- windowオブジェクトをスクロール
 - 要するにスクロールバーを動かしたら、ということ
- \$(window).scrollTopでスクロールバーの上側位置を取得できる

クラスの適用、削除

- 予めCSSに作成したクラスを適用することが可能

```
$(“ターゲット”).addClass(クラス名);//指定したクラスをターゲットに適用する  
$(“ターゲット”).removeClass(クラス名);//指定したクラスをターゲットから削除する
```

- クラス名は、「.」を抜いて指定を行う

作るもの（2）

- 上から画像がスライドしてくる
- Nextボタンを押すか、サムネイルをクリックすると次のページまたはサムネイルのページに移動する
- 移動する場合は画像がスライドして下に抜けていき、表示されなくなったら移動する
- JSでページを移動する

```
location.href= "index.html" ;//index.htmlへ移動
```

初期状態

表示されるdiv

ページが表示されたと同時に上から降りてくる

div

position:relative
overflow:hidden

表示状態



終了状態

div

position:relative
overflow:hidden

表示領域div
から抜けた瞬間に別URLへ
と遷移させる

表示されるdiv

jQuery easing プラグイン

- jQuery単体でもある程度アニメーション効果をもたらすことが可能だが、easingプラグインを導入するとアニメーション効果を増やすことが可能
 - <http://semoooh.jp/jquery/cont/doc/easing/>に動作サンプル